

平成 30 年度森林・林業白書の総括

1. 閣議決定・公表までの経緯

(1) 平成 30 年度白書では、冒頭のトピックスにおいて、「①平成 30 年度 7 月豪雨や北海道胆振東部地震による災害の発生と復旧への取組」、「②国連気候変動枠組条約第 24 回締約国会議 (COP24)」、「③ますます進んでいく非住宅・中高層建築物の木造化・木質化」、「④森林・林業・木材産業と持続可能な開発目標 (SDGs)」、「⑤「第 69 回全国植樹祭」が福島県で開催」の 5 つを紹介・解説した。

特集章では、「今後の森林の経営管理を支える人材～森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらす！～」をテーマとして、林業の成長産業化と森林の適切な経営管理の実現に不可欠な林業経営体や林業従事者の動向、林業への就業が期待される学生等への意識調査に加え、魅力ある林業の実現につながるイノベーションの事例等について記述した。

(2) 昨年 8 月以降、計 3 回の施策部会において御審議いただき、本年 4 月の林政審議会では諮問・答申が行われ、6 月 7 日に閣議決定の後、国会提出を行い、公表した。(別添 1)

2. 閣議決定・公表後の動き

(1) 報道

時事通信等の配信により、複数の地方紙、ウェブメディア等で、非住宅・中高層建築物の木造化・木質化の動向や木材自給率の上昇に関する内容等が紹介された。また、林業・木材産業の業界紙等では、特集章のテーマである「今後の森林の経営管理を支える

人材」を中心に取り上げており、初実施の学生アンケートの結果や林業経営体の労働環境の改善の必要性等に関する内容等が紹介された。

さらに、日本商工会議所（トレンドボックス）や建設工業新聞といった、林業・木材産業以外の業界紙においても、特集章や近年の山地災害を踏まえた治山対策等について紹介記事が掲載された。（別添2）

（2）広報・普及

閣議決定本の配布、市販本の出版、解説記事の投稿等を行った。

また、林野庁企画課の担当者等が各地の説明会に赴き、計43回、約1,900名に白書の概要についての説明を行った。（別添3）

（3）主な評価

説明会でのアンケート調査等では、日本の森林・林業の現状を幅広く知ることができて良かったという評価が多く見られた。また、森林経営管理制度や森林環境税等、新たな制度についての理解が深まったという評価があった。（別添4）

具体的な評価については以下のとおり。

- ・事例の紹介が多く、白書の記述内容に関連した取組みのイメージが持ちやすく読みやすいと感じた。
- ・ICTの活用など、他産業で行われていることをもっと取り入れられれば、林業の発展につながるだろうと思った。
- ・林業の労働条件が厳しいことを改めて認識し、若い人材を取り入れるには課題と感じた。生産効率を上げることが重要と感じた。
- ・内容として、林業や木材産業的な視点が多かったため、環境政策との両立も知りたい。

平成 30 年度森林・林業白書の
閣議決定・公表までの経緯

平成 30 年 8 月 27 日 第 1 回施策部会

- ・ 作成方針（案）の検討

11 月 26 日 第 2 回施策部会

- ・ 平成 30 年度森林及び林業の動向
(構成（案）、主要記述事項（案）)

平成 31 年 3 月 15 日 第 3 回施策部会

- ・ 平成 30 年度森林及び林業の動向（原案）
- ・ 平成 31 年度森林及び林業施策（原案）

4 月 16 日 林政審議会

- ・ 平成 30 年度森林及び林業の動向（案）
- ・ 平成 31 年度森林及び林業施策（案）
(諮問・答申)

令和元年 6 月 7 日 閣議決定・国会提出・公表

平成30年度森林・林業白書に関する主な報道について

紙名	日付	記事の概要
時事通信 時事通信 iJAMP	6/7	<p>【新木材の建築物が倍増＝需要創出、なお課題－林業白書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・耐久性に優れた新たな建築木材「直交集成板（CLT）」を使った建築物の数は前年度の24棟から46棟にほぼ倍増。CLTを本格活用した建築物として国内最高層となる10階建ての賃貸マンションが仙台市内に完成したことを紹介。 ・CLT生産拡大のためには、さらなる需要創出や技術支援が課題となっていることを紹介。
共同通信 (北海道新聞、東京新聞、琉球新報、沖縄タイムスなど)	6/7	<p>【木材自給率32年ぶり高水準 林業白書、合板の利用拡大】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木材自給率は7年連続で上昇し、2017年には36.2%となり、32年ぶりの高水準を回復。住宅の壁や床に使う合板として国産材の利用が広がっていることなどが追い風となったと紹介。 ・さらに、木質バイオマス発電の燃料材としての利用拡大や、アジアの森林違法伐採対策の徹底で輸入が減少したことも自給率の押し上げ要因となったと説明。
日本農業新聞	6/8 6/18	<p>【林業白書 賃金水準が課題 学生の就業動向を特集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業の成長産業化と森林の適切な経営管理を担う人材の動向を特集したことと、林業などを学ぶ大学生らを対象としたアンケートで、4割が森林・林業や木材産業への就業を希望している結果が出たことを紹介。半面、就業先を選ぶ際は労働条件も重視しており、賃金水準の向上などが改めて課題として浮かび上がったことも説明。 ・西日本豪雨など相次いで発生した自然災害による被害や、森林経営管理制度についても取り上げたことを紹介。 <p>【論説：林業の人材不足 労働環境の改善を急げ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保に向け、林業経営体の労働環境の改善を急ぐ必要があると指摘。平成30年度森林・林業白書が人材の確保に焦点を置き、当面の大きな課題と位置付けたことを紹介。また、白書は、情報通信技術（ICT）などの新たな技術の導入でコスト削減を進め、労働条件の改善に取り組む必要性を強調したことを紹介。
日刊木材新聞	6/11	<p>【森林・林業白書 28年ぶりに人材特集 人に焦点当てる異色の事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第I章では、1990年以来28年ぶりに人材をテーマとした特集を組み、担い手不足の深刻さを改めて示したと説明。特集では、初めて実施した学生らへのアンケートの結果や、現場で活躍する人物を詳しく紹介する、これまでにない事例集などを盛り込んだと説明。 ・第IV章の「木材産業と木材利用」では、近年白書で積極的に取り上げられている輸出や非住宅建築物の木材利用の進捗を引き続き紹介したと説明。（米国へのフェンス向け輸出や、CLTや耐火部材を用いた事例で特に高層化が進んでいることなど。）また、木質バイオマスのマテリアル利用では、新たな技術として改質リグニンも取り上げたことを紹介。

	8/20	<p>【林業白書を読み解く、林業・木材産業活性化研修会を開催】</p> <p>6月に公表された森林・林業白書の内容をテーマとした研修会が、岡山県木材組合連合会と岡山県木材協同組合連合会により開催されたと紹介。</p>
日刊工業新聞	6/12	<p>【人材確保・スマート化、成長産業化に必要な 森林・林業白書】</p> <p>(林業白書の公表について紹介)</p>
林政ニュース	6/12	<p>【28年ぶりに「人材」を特集、2018年度「白書」 初の学生アンケートで就業ニーズなど探る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第I章(特集章)は「今後の森林の経営管理を支える人材」がテーマ、「人」に焦点を当てて特集するのは、1990年以来28年ぶりだと説明。学生等を対象にしたアンケートの結果を紹介。 ・「白書」はアンケート結果などを総括して、林業の労働条件を向上させ、安全で働きやすい職場づくりを進めることが不可欠としたと説明。また、他産業の技術・情報イノベーションの成果を取り入れ、スマート林業を実現すべきとの方向性を示したと紹介。
西日本新聞	6/12	<p>【森を守れ 林業は今 機械化進み作業負担減 輸入増で細る産業、人手足りず】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長崎県林業協会による林業体験に記者が参加、間伐を体験し、現場の実情や林業の現状を報告。平成30年度森林・林業白書によれば、林業就業者は1985年から2015年までの30年間で約3分の1にまで落ち込み、高齢化も深刻であることを紹介。
日本商工会議所 (トレンドボックス)	6/13	<p>【「森林・林業白書」を公表(林野庁)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特集として、林業の成長産業化と森林の適切な経営管理の実現に不可欠である人材に着目し、こうした人材が森林・林業・木材産業にイノベーションをもたらしていくことの必要性などについて解説していると紹介。
建設工業新聞	6/18	<p>【政府/18年度版森林・林業白書を決定/緊急治山対策6割以上で着手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年7月の九州北部豪雨後に国や地方自治体が進めている、緊急治山対策の進捗状況を報告したことを紹介。直近の2019年1月末時点で6割以上の地区で着手済みとなっており、流木捕捉式治山ダムの設置などに取り組んでいることも紹介。 ・国産木材の流通促進という観点から、林野庁と国土交通省が推進する中高層建築物の木造化・木質化をさらに普及拡大していく方針も示したと説明。CLTの普及拡大を目指し、生産体制の増強や民間建築市場でのさらなる需要創出が課題になると指摘したことを紹介。
静岡新聞	7/26	<p>【森林・林業白書を解説 林野庁職員、「人材」テーマに】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月25日に静岡大学農学部で行われた、林野庁職員による講演会について紹介。「人材」を特集テーマに発行された平成30年度森林・林業白書について職員が解説したと説明。国内の人工林が本格的な利用期を迎え、経営や管理を担う人材の重要性が高まっていることから特集テーマが設定されたと紹介したことなどについて記載。

平成30年度森林・林業白書の広報・普及について

1. 閣議決定本の配布

閣議決定本を3,300部印刷して、国会に提出(約450部)するとともに、関係府省(約100部)、都道府県(約240部)、都道府県立林業試験場(約50部)、国会図書館(25部)、都道府県立図書館(約110部)、市立図書館(政令市のみ)(約40部)、林業関係団体(約300部)、農業高校(約70部)、大学・短期大学等(約50部)等に配布。

また、農林水産省ホームページにPDFファイルを掲載(9月頃までにHTML版を掲載予定。今年度から語句検索機能を実装予定)。

2. 市販本の出版

広く一般向けに周知することを目的に、印刷・出版の要望があった2者に対し出版許可を行い、市販本計6,450部を出版・配布。

- ・ 一般社団法人全国林業改良普及協会 : 5,000部
- ・ 一般財団法人農林統計協会 : 1,450部

3. 説明会の開催

地方農政局、大学、林業大学校等に、林野庁企画課の担当者等が直接赴き、8月までに計43回、約1,900名に対して、森林・林業白書の概要を説明(大学等の説明会では、自由記述のアンケート調査を実施)。

(1) 4白書合同説明会

全国の地方農政局等において、農・食・林・水4白書の合同説明会を開催。都道府県、市町村、林業関係者等を中心に、計10回、約500名が参加。

北海道農政事務所(7/1)、東北農政局(7/12)、関東農政局(7/19)、北陸農政局(7/9)、東海農政局(7/10)、近畿農政局(7/11)、中国四国農政局(中国会場)(6/25)、中国四国農政局(四国会場)(7/4)、九州農政局(7/23)、沖縄総合事務局(7/17)

(2) 大学、林業大学校での説明会

全国の大学等において、主に講義の一環として、白書説明会を開催。農学部等の学生を中心に計26回、約1,200名が参加。

北海道大学(7/18)、岩手大学(7/5)、秋田県立大学(6/26)、山形大学(6/14)、筑波大学(7/12)、宇都宮大学(6/20)、東京大学

(7/29)、東京農工大学 (6/18)、東京農業大学 (7/11)、日本大学 (6/12)、新潟大学 (7/26)、信州大学 (7/30)、岐阜県立森林文化アカデミー (7/10)、名古屋大学 (7/9) 三重大学 (7/11)、京都大学 (6/24)、京都府立大学 (7/18)、京都府立林業大学校 (7/19)、近畿大学 (7/5)、岡山大学 (6/26)、高知県立林業大学校 (7/12)、高知大学 (6/19)、九州大学 (7/2)、宮崎大学 (7/2)、鹿児島大学 (7/16)、琉球大学 (7/17)

(3) その他の説明会

以下の団体等において、白書説明会を開催。計7回、約200名が参加。

- ・ (株) 日本政策金融公庫 (7/9)
- ・ 日本林政ジャーナリストの会 (6/11)
- ・ 東北森林管理局 (局職員、秋田県庁職員、林業者等) (6/26)
- ・ 広島県庁 (7/17)
- ・ (一社) 全国森林レクリエーション協会 (6/24)
- ・ 日本製紙 (株) (7/30)
- ・ 岡山県木材組合連合会 (7/19)

4. 紹介記事の投稿

森林・林業関係誌等に、白書の紹介記事を投稿。

- ・ 「林野-RINYA- 6月号」(林野庁広報室)
- ・ 「森林と林業 6月号」(日本林業協会)
- ・ 「森林組合 6月号」(全国森林組合連合会)
- ・ 「山林 7月号」(大日本山林会)
- ・ 「森林技術 7月号」(日本森林技術協会)
- ・ 「林野庁 公式フェイスブック」(林野庁広報室)

5. その他の情報発信

以下の組織・団体等に対して、白書の紹介と活用に向けた提案等を実施。

- ・ 林業団体懇談会 (6/20)
- ・ ウッドソリューション・ネットワーク (7/23)
(農林中央金庫及び木材関連企業等が参画する情報プラットフォーム)

また、農林水産省「消費者の部屋」において、森林・林業関連図書と併せて白書を紹介する展示を実施。

- ・ 本の森に出かけよう～森のめぐみと白書の知識～ (8/13～8/23)

(以上)

リン子の絵日記

特別編

森林・林業白書



お父さん何読んでるの？

森林・林業白書だよ

はくしよ白書？

「白書」とは政府が農林水産業や外交、経済など各分野の現状と施策を国会に対し説明する、年次報告書だよ。



令和元年現在45の白書があるよ(法定白書は29)



さあ！山で頑張るぞ！

子供向けにジュニア農林水産白書もあるよ

国土の7割を占める森林のこれまでとこれからが図表や事例、写真などを活用して記述されているよ

「森林・林業白書」は林野庁が昭和39年から毎年発行している法定白書だ。

森林・林業白書は林野庁HPから閲覧できます。

<http://www.rinya.maff.go.jp/index.html>



林野図書資料館でも閲覧可能です



平成30年度森林・林業白書に対する主な評価

1. 全般に関するもの

- ・ 日本の林業の現状を幅広く体系的に知ることができた。
- ・ データや数値を用いて説明されているため、理解が深まった。
- ・ 事例の紹介が多く、白書の記述内容に関連した取組みのイメージが持ちやすく読みやすいと感じた。
- ・ 内容として林業生産、木材産業的な視点が多かったため、環境政策との両立も知りたい。

2. トピックスに関するもの

- ・ 豪雨災害が近年深刻になっているので、その対策を知ることができよかった。
- ・ パリ協定や建築物の木造化の動きなど、最新の話題を知ることができた。
- ・ 鉄筋コンクリートと木材を使った小学校の事例が印象的だった。木材の生産ばかりではなく利用も大切だと感じた。

3. 第I章（特集章）に関するもの

- ・ 林業が時代によって変化しているということ、イノベーションの実例を知ることによって実感できた。日本の森林はこれからだ、と前向きなイメージを持つことが出来た。
- ・ ICTの活用など、他産業では先んじて行われていることが林業・木材産業では遅れて導入されていることが印象的だった。他産業で行われていることをもっと取り入れられれば、林業の発展につながるだろうと思った。
- ・ 女性の気配りや目線、発想力を林業分野で活かせば、新しい開発につながられるのではないかと感じた。
- ・ 林業の労働条件が厳しいことを改めて認識し、若い人材を取り入れるにあたっての課題だと感じた。日本は外国に比べて木材生産コストが高いということだが、人件費を下げると担う人がいなくなるので、生産効率を上げることが重要だと感じた。
- ・ 森林・林業に関する教育意識が高まっていることを感じた。

4. 通常章に関するもの

- ・ 森林経営管理制度や森林環境譲与税について詳しく知ることができ良か

った。

- ・ 最近では森林経営を放置している所有者や所有者不明森林が増えてきていると思うので、森林経営管理制度の活用を期待したい。
- ・ 森林環境譲与税がこれからどのように活用されていくのか興味深い。都市部における活用の仕方が、案外重要なファクターになるのでは。
- ・ 人工林の齢級構成のグラフを見て、若い林齢が少ないことが気になった。
- ・ 林業労働災害や林業機械操作のVRやシミュレーターの活用は、安全面に活かせる、期待できる取組だと思った。
- ・ 中高層の木造建築が実現したことが驚きだった。
- ・ 林業の成長産業化に向けた国有林の役割がはっきりと分かった。
- ・ 福島の木造仮設住宅が移設・再利用された話題は興味深い。